

問題を探せ。  
答えを探すな。

滋賀県立大学 | 環境科学部  
環境政策・計画学科



“環境”で鍛えたチカラは、  
社会のどこでも通用する。

環境政策・計画学科



環境政策・計画学科  在学生・卒業生が取り組んでいる「問題」をHPでチェック！  
<https://depp-usp.com/>  
お問い合わせ E-mail: [cssoffic@ses.usp.ac.jp](mailto:cssoffic@ses.usp.ac.jp) (環境政策・計画学科控室)

 滋賀県立大学 THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE 〒522-8533 彦根市八坂町2500  
TEL: 0749-28-8200 (代表) HP: <http://www.usp.ac.jp>



# 答えを探すな。 ”問題”を探せ。

問題が決まっていれば、答えだって決まってくる。  
ワンクリックで、すぐに答えが見つかるかも知れない。  
でも、そんな学びって楽しい？

答えの前に、誰も気づかなかった問題を自分の力で発見すること。  
そこから始める方がよりクリエイティブで、  
世の中にとっても価値あることだと私たちは考えます。  
だから、机にかじりつく前に、まずは現場に飛び出す。  
そして、できるだけ多くの人と対話をする。

目を凝らし、耳を澄ませば、  
今、自分が取り組むべき問題がきつと見えてくるはず。  
一言では表しきれないこの学びを「おもしろい」と感じられるなら、  
4年間で磨いたものは、必ずあなたの武器になるでしょう。

# 環境政策・計画学科 学びのステップ

## 現場で役立つ スキルを学ぶ

環境問題の現場では必須の、調査やファシリテーションについてなどの基礎知識を学びます。



ファシリテーション技法・演習



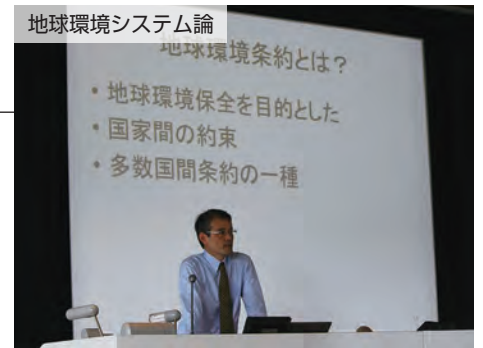
応用統計学

- 合意形成支援技法・演習
- 地域調査法
- 環境シミュレーション
- GIS演習
- 環境情報
- 環境経済演習
- 基礎統計
- 環境計画学

など

## 環境の専門知識 を学ぶ

環境政策・計画学科では、基礎となる理論から専門的な内容まで、広い範囲で学びます。



- 環境経営学
- 環境経済学
- 国際環境資源論
- 環境社会学
- 環境政策学
- 地域環境政策論
- 環境法
- 水環境政策論
- 廃棄物管理論

など

## 現場を実践的 に学ぶ

実際現場に立って、環境イベントを企画・実施したり、市民の話し合い(合意形成)の場で意見をまとめたりなど、実践的に学びます。



政策形成・施設演習



政策計画演習

- 社会調査実習
- 環境マネジメント演習
- 社会システム分析設計・演習
- 市民参加論

など

「環境で鍛えたチカラは、社会のどこでも通用する」

市民や行政・企業に対し、いわゆる環境のスペシャリストという立場で政策・計画を立案。持続可能な社会に導いていくための能力を磨きます。

そのために、机上だけではなく、まちづくりや環境活動の現場に飛び込み、答えの前に問題を発見するところから始める「生きた学び」を実践していきます。

ここで培った「発想する」「提案する」「全体を見通す」「物事を推進させる」といった力は、社会で求められる普遍的なスキル。

どんな分野でも通用する人材となって、将来の選択肢を広げてください。

多彩な視角を持って現場に立てるように、幅広い専門知識を学ぶ

環境問題とは、自然と人間社会が絡み合った現場に生じています。

この問題を理解して解決するためには、自然生態系の挙動だけでなく、人間社会の制度や仕組みも学ぶ必要があります。この学科では、多彩な視角を持って現場に立てるように、幅広い専門知識を学ぶ科目はもちろん、実践的なスキルを身に付ける科目を用意しています。自身で問題を発見して取り組む実践的なチカラを育むプログラムとなっていますので、環境問題に限らず、卒業後の実社会でもすぐに応用できる社会人基礎力が磨かれます。

授業についての詳しい情報はこちら  
<https://depp-usp.com/about/class>



## 卒業研究

### 問題発見

学生自ら探した「問題」をもとに卒業論文のテーマを決めます。

### 調査分析

テーマにあった研究室で教員の指導を受けながら、さまざまな調査方法で研究を進めます。

### 問題解決の糸口発見

調査・分析により、明らかにしたことから、「問題解決」するための糸口や課題を発見します。

## 4年間の学習の「集大成」としての卒業研究

自分で探した問題を最大限の努力を傾けて取り組むことで得られる最大の収穫、それは自分の視点で「社会の一端がはつきりと見えるようになる」といふこと、15000日ある大学生生活総決算として「自分がよくわかるようになる」ことです。



### 授業以外の課外活動などの取り組みはある？

課外活動の一つとして、全学の学生地域活動プログラム「近江楽座(おうみらくげ)」があります。本学科の学生も、滋賀県東近江市でお茶づくりを実践する「政所茶レン茶(ちやれんじや)」や、宮城県南三陸町にて地域復興・交流イベントを企画・運営する「たのうらまちづくりプロジェクト」などに関わっています。また、環境系サークルでの活動を通じて、環境啓

### 海外留学に行ける？

大学の交換留学制度(北米、オセアニア、欧州、アジア)を利用するなど、自分の興味に応じた留学ができます。留学経験をもとに卒業研究をした先輩もいます。

### 過去の卒業生の進路は？

どのような職種にも関口は開かれています。環境問題を考えることで身につけたチカラは、どんな分野にも通用すると考えていますので、幅広い職種への進路をすすめています。

### 主な就職先

**【民間企業】**パナソニック(株)、(株)村田製作所、富士通(株)、大和ハウス工業(株)、(株)LIXIL、ソフトバンク(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、みずほ情報総研(株)、西日本高速道路(株)、西日本旅客鉄道(株)、南海電気鉄道(株)、(株)阪急交通社、日本通運(株)、日本郵便(株)、(株)電通テック、(株)平和堂、野村證券(株)、明治生命保険(相)、(株)三井住友銀行、(株)滋賀銀行、(株)大垣共立銀行、京都中央信用金庫  
**【公務員】**国土交通省、北陸農政局、近畿運輸局、国税専門官、滋賀県、岐阜県、静岡県、滋賀県警察、彦根市、大津市、京都市、横浜市、京都市立小学校  
**【その他】**青年海外協力隊、琵琶湖環境科学研究センター、草津市議会議員

### 主な進学先大学院

滋賀県立大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、名古屋大学、九州大学など

## Q&A

### この学科は文系？理系？

環境問題がある現場に文系理系の区別はありません。どちらの視点も必要なので、教員も文系理系のどちらの専門家も所属しています。

数学や理科の持つ理系的思考は大事ですし、国語や地歴・公民の持つ文系的思考も大事なのです。

### 何か資格が取れる？

高等学校教諭一種免許(公民)、学芸員資格、社会調査士資格、GIS学術士資格、地域調査士資格、自然再生士補資格などを取るができます。

### 幅広い専門分野の教員から学べます

教員一人当たり学生数はわずかに4名。1回生から少人数のゼミが始まり、教員との距離が近い学科です。

香川 雄一	人文地理学、環境地理学、都市社会地理学
上河原 献二	環境法、環境政策
高橋 卓也	環境経営、森林政策・計画、資源・環境経済
瀧 健太郎	流域政策・計画学、水工学、応用生態工学
村上 一真	行動経済学、環境経済学、開発経済学、地域経済・政策論
林 幸司	環境経済学、環境政策論
平岡 俊一	市民参加・協働、NPO/NGO、環境社会学
平山 奈央子	湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加、意思決定手法
和田 有朗	環境計画、環境政策、土壌環境システム
大方 正倫	上下水道、微量化学物質管理、水質モニタリング
堀 啓子	環境工学、社会・生態システム、エネルギーシステム
吉川 直樹	環境システム学、ライフサイクル評価、廃棄物管理

2024.4.1現在

この学科の教員紹介

<https://depp-usp.com/prof>



## 過去の卒業研究

### 研究 その1

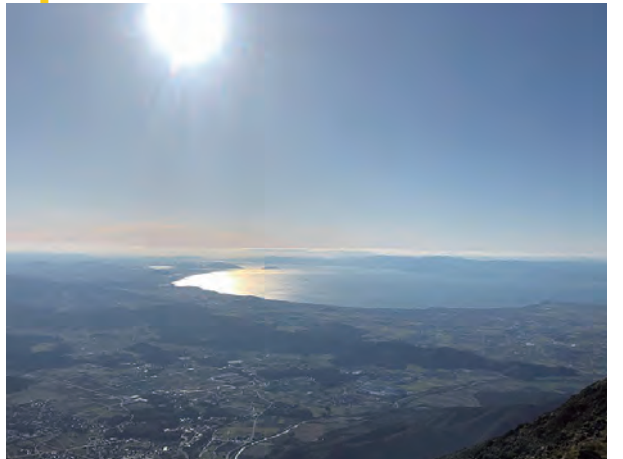
北川 大雅 さん(2018年度卒業)

### 洪水ハザードマップを安全・便利なまちづくりに活用したい!

洪水ハザードマップには、浸水の深さやいざというときの避難方法が書かれています。しかしこれは、裏を返せば安全度マップと見ることができます。それなら、普段のまちづくりに活用できるのではないかと考えました。

### 安全性、利便性に着目し、解析

洪水氾濫シミュレーションを行い、予想浸水深などからそれぞれの場所の安全性を評価。“期待被害率”という指標で表現しました。また、利便性は、駅・商店・病院など暮らしに欠かせない施設からの距離で評価しました。徒歩圏内だととても便利です。



### 問題解決の糸口発見

安全性と利便性、これら2つの視点からの評価を重ね合わせ、安全で便利な場所を表したマップを作成しました。ハザードマップに示された水害リスク情報は、避難時にだけ活用するのではなく、まちづくりに活用できそうです。

### 研究 その2

松浦克彦 さん(2012年度卒業)

### 開発途上国の小さな島、ツバル 増えつつけるごみをどう管理すればいいの？

海拔1メートルの島国ツバル。環境問題は地球温暖化により生じた海面上昇だけではなく、狭い国土で処理しきれなくなったごみ、水質汚染。遠く離れた異国の地の、山積みの問題へと挑みます。



### 調査分析

### 聞き取り調査・アンケート調査を実施

分別してごみを捨てない住民がいることを聞き取り調査で把握したり、ツバルの住民にアンケート調査を行いました。

### 問題解決の糸口発見

アンケートから、プラスチックごみの存在しない離島からの移住者が特に分別できていないことを把握しました。また、都市での居住年数が増えるほど、分別に適應していくことが分かりました。結果をもとに、ごみ収集作業の効率化にむけた政策提案をしました。

研究室や過去の卒業研究のリストはこちら

<https://depp-usp.com/about/soturon>

